

完了報告書

記入年月日 2026年2月16日
採択団体名 中山町防災教育推進協議会



■事業概要

基本情報	
事業名	中山町全世代防災教育普及事業
事業内容	事業内容①:防災教育プログラムの作成(先進地視察を含む) 事業内容②:なかやまマイコミュニティ減災マップの作成 事業内容③:防災教育プログラムおよび、なかやまマイコミュニティ減災マップを活用した防災教育の実施
事業背景	<p>地盤が弱く、山形盆地断層帯(南部)があり、また、最上川と須川による洪水の浸水想定区域内に住民の7割以上が居住していることから、中山町では令和2年度に策定した第6次中山町総合発展計画では重点プロジェクト「防災・減災 災害につよいまちづくりに向けた取組み」として「防災教育の推進」を事業化、令和3年度から山形県内で防災教育に取組むゲンサイデイズとの連携により、防災教育連絡調整会議(中山町防災教育推進協議会の前身)を設置し、関係機関と調整を進めながら学校等の授業における防災教育を開始、同計画策定直前に発生した令和2年7月豪雨により約120戸が床上・床下浸水となったことを受け、対策が始まった石子沢川流域治水の取組みにおいても重要な取組みとしての評価を得ながら、令和7年度に全学年での授業実施が実現した</p> <p>この園児・児童・生徒を対象とした「幼児からの切れ目ない防災教育」を保護者、高齢者、全町民へと対象を広げ、学校教育を含む地域のコミュニティに防災教育を拡大し、地区全体の防災力を高めようとするもの</p>
コミュニティ 設立の経緯	令和3年度から町内の幼稚園・保育園・小学校・中学校の子どもたちを対象とした防災教育を円滑に行うため関係機関による「中山町防災教育連絡調整会議」を設置して取組んできており、その対象を一般町民に拡大するのに伴い、「中山町防災教育推進協議会」に発展させたもの
本事業に関する過去の 取り組み内容	<p>令和3年度から、町内すべての幼稚園・保育園・小中学校において、年中児から中学3年生までの学年ごとに教科と融合した防災教育のプログラム化に取組んでおり、段階的に実施学年を増やし、令和7年度で全学年での防災教育の実施となった。このうち、一般町民向けにも有効である my 減災マップ®の手法を活かした「なかやまマイコミュニティ減災マップ」づくり・コミュニティタイムライン等を事業化する</p> <p>※ 参考 令和3～6年度までの防災教育については、ゲンサイデイズと中山町の防災部局との連携による各種団体(防災教育チャレンジプラン)や県補助金(やまがた社会貢献基金事業)の事業によりスタートした小さな防災教育の段階から、連携調整会議を立ち上げ、中山町の防災部局による業務委託としての事業化により、教員・職員の異動があっても持続的に引き継いでいける場づくりからスタートしていることや、町を取り巻く様々な団体や人材と連携していること、また、この防災教育は義務教育の中にも馴染みやすく、教育で求められる単元のねらいに合わせ内容を設定しているのが大きな特徴になっている(参考資料:中山町防災教育の概要・R5 中山町防災教育報告書・R7 中山町防災教育提案)</p> <p>【令和7年度の実施内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園 <ul style="list-style-type: none"> ・自然、環境との関わりの中から災害を認知する 警報音との出会いとその意味を読み聞かせ(オリジナル紙芝居)から知り、身体遊び(変身うんどう)で身を守る方法や身を守る身体づくりを行う ・園児への実施に合わせ、園防災のアップデート(避難訓練や緊急引き渡しの見直し)を両輪で実施 ・小学校 <ul style="list-style-type: none"> 1年「体育:体ほぐし 多様な動きを作る運動遊び」地震時の身の守り方を体験的に学ぶ 2年「算数:長さ・四角・重さ」浸水時の困難を算数の学びにあわせて学ぶ(2月実施予定) 3年「社会:火事からまちをまもる」消防の働きの中でも救急に目を向け、共働きの力を身につける 4年「社会:自然災害にそなえるまちづくり」風水害の学習に沿い、my減災マップ®の手法を活かしたミニDIG(状況予測)で危機を知り、行動できる心を育む 5年「理科:川のはたらき」※教員による理科の授業に河川モデルを配置、あわせて外部講師が防

	<p>災教育を実施。理科的な川の働きが人間社会の中で働くことが災害であることを学び、町をどう守れるのか、何を守りたいのか考える</p> <p>6年「理科:大地の変化」「社会:わたしたちの暮らしを支える政治」※地震に目を向け、今年度制作したなかやまマイコミュニティ減災マップによる授業を検討する(2月実施予定)</p> <p>・中学校</p> <p>1年「家庭科:防災と住生活」「風水害24(避難行動シミュレーションゲーム)」実施から、町に暮らす人との自助から共助への繋がりや、家庭の備えや災害時の地域との関わり・自身の役割を知る</p> <p>2年「総合:コミュニティタイムライン」マイタイムラインから地域にいる避難行動要支援者の暮らしのイメージを持ち、支援者としてできる行動を考える</p> <p>3年「総合:避難所から地域の社会課題を探る」災害ケースマネジメントの視点で被災者の課題を知り、日常にある社会課題へのアプローチ、避難所の改善を考える</p>
事業体制	<ul style="list-style-type: none"> 中山町防災教育推進協議会(中山町立長崎小学校、中山町立豊田小学校、中山町立中山中学校、なかやま保育園、ながさき幼稚園):事業内容③の参加者募集、会場提供 石子沢川流域水害対策協議会(国土交通省、山形県、中山町、最上堰土地改良区等):事業内容②のなかやまマイコミュニティ減災マップ作製に係るハザード情報の提供・助言 ゲンサイデイズ:事業内容①のプログラム原案作成 1名 事業内容②のなかやまマイコミュニティ減災マップ制作および監修 3名(連携デザイナー含む) 事業内容③の防災教育の実施における講師・支援 2名(支援団体:山形ゆらし隊) 中山町:事業内容①のプログラム原案作成支援 2名 事業内容②のなかやまマイコミュニティ減災マップ作成支援 1名 事業内容③の防災教育の実施における支援 3名
全体スケジュール	<p><2025年11月></p> <ul style="list-style-type: none"> 事業内容①②の打ち合わせ 協議会・ゲンサイデイズ・町(防災部局) <p><2025年12月> 各回出席者:協議会・ゲンサイデイズ・町(防災部局)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業内容①の打ち合わせ(プログラム案・先進地視察先選定) 事業内容②の打ち合わせ(マップ記載内容・ハザード情報収集先) 事業内容③の打ち合わせ(実施日時・実施会場・対象者・周知広報) なかやまマイコミュニティ減災マップおよびシールプロトタイプ作製 <p><2026年1月></p> <ul style="list-style-type: none"> なかやまマイコミュニティ減災マップWSの実施 なかやまマイコミュニティ減災マップおよびシールの更新、最終版作製 <p><2026年4月以降></p> <ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織や各種団体等のコミュニティ単位でワークショップを開催しながら、なかやまマイコミュニティ減災マップを住民へ配布(新年度当初の中山町自主防災会連絡協議会総会で周知)
事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<p>町民に対し、自分だけの「なかやまマイコミュニティ減災マップ」の作成を通じ、災害時の行動を具体的に想定してもらうことで、災害に対する行動変容を促す</p>
事業成果全般 (教育提供者)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを対象としてきた防災教育の中から、一般町民向けに実施できる内容を抽出しプログラム化することで、継続的なコミュニティ防災教育の基盤を構築する なかやまマイコミュニティ減災マップを作成し、連携団体に周知することで、全町民を対象とする防災教育の実施準備をする 多様な住民構成を対象にした防災教育を実施することで補助事業終了後も継続できるノウハウを蓄積する
事業目標全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> 自分(家族)の住む地域のハザードへの理解を深め、避難方法を具体的に検討することで「自分の避難スイッチ」を設定する
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> 参加者ごとに、自他周辺のハザード、避難所・避難方法・避難経路を確認する 自分(家族)のためだけのなかやまマイコミュニティ減災マップを作成する

<p>展開できる 知見やノウハウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかやまマイ▶コミュニティ減災マップを使ったワークショップ実施ノウハウを提供できる ・ 市区町村ごとにハザードや面積が違うので、なかやまマイ▶コミュニティ減災マップ作成にあたって苦心した点などのノウハウを提供することができる ・ 当町の場合、先進者として、子どもたちから大人への防災教育内容の普及をすでに数年実施している実績、積み重ねがあり、その効果測定を行い、事業効果を提供することができる
<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<p>当該地域のハザード特性と災害時の対応について、一貫した情報・知識の定義・用例を整理し、実施者ごとのばらつきのない教育内容となるよう「防災教育のガイドライン」を整備することで、参加者が混乱しないよう内容と方法を構築すること</p> <p>そのため、協議会設置や関連団体との連携の必要性を共有することが重要となる</p>
<p>残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ なかやまマイ▶コミュニティ減災マップの地域展開の中で、その地域に合った災害ハザードの抽出や避難行動対象者への意識などを、その後の展開(例えば、地区防災計画や個別避難計画)に結び付けられるような研修講師の育成 ・ 住民の共助参画を後押しする事前防災プログラム(各種図上訓練や実動訓練・避難生活支援リーダー／サポーター研修・防災リーダー等認定制度)の不足

■事業内容

事業内容① 防災教育プログラムの作成(先進地視察を含む)	
事業内容①目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■ なかやまマイ▶コミュニティ減災マップ作りワークショップの開催方法(受入れ団体へのアクセス)を確立する ■ 若年層と高齢者は心身の状態の変化が大きいことから、年に1度、世帯単位でなかやまマイ▶コミュニティ減災マップの内容を見直す機会の提供方法を確立する(なかやまマイ▶コミュニティ減災マップの認知度をあげるにより、総合防災訓練時に全町的な周知広報の効果を向上させる) ■ なかやまマイ▶コミュニティ減災マップを通じた災害情報への認識を向上させることで「避難スイッチ」を確立し、災害時の行動変容を促す
事業内容①目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■ いずれかの世帯員がなかやまマイ▶コミュニティ減災マップ作りのワークショップを1回体験する ■ ワークショップを通じて自助による減災の取組みを学び、年に1度なかやまマイ▶コミュニティ減災マップの内容を見直すよう習慣づける
事業内容① 実施内容 A (実施日:1/14及び15)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 先進地視察 区民へ「自分でつくる my 防災マップ」配布を先進的に取組んでいる横浜市神奈川区総務部総務課との情報交換及び横浜市青葉区の子ども支援員(放課後児童クラブ)向け減災教育研修への参加と研修実施団体との情報交換を目的とした視察を行った。 □ 成果 [視察参加者](提供者) なかやま保育園長、長崎小学校長、中山中学校長、協議会事務局職員(町教育委員会及び町防災担当) 視察中にも内部での情報共有、意見交換を実施し、減災教育の基本的な考え方と「自分でつくる my 防災マップ」を実践的に配布している実例から学んだ事項を、より町の状況に即した形で、それらを一体的に普及することの意義と実施の見通しを共有した <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="text-align: center;"> <p>横浜市神奈川区総務部総務課</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="text-align: center;"> <p>横浜市青葉区</p> </div> </div>
事業内容① 実施内容 B (実施日:1/11、24、1/29AM・PM)	<ul style="list-style-type: none"> ■ プログラム作成 視察及びなかやまマイ▶コミュニティ減災マップの試行品の検証とワークショップの参加者からのアンケート(2回)により、町民への普及プログラムの原案を作成した □ 成果 協議会(提供者)として、今後展開する町民への普及について、定型化したプログラムとして提示することができ、さまざまな地域コミュニティを対象に実践できる体制が整備された
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<ul style="list-style-type: none"> ■ 発生した課題や失敗点 <ul style="list-style-type: none"> ① ワークショップの内容が伝えづらく、一般的な行政広報のみでの周知では参加者が少ない。 ② ワークショップを開催できる人材の確保が課題となる。 □ 乗り越えた方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 興味のある方への声掛けにより確保した ② 消防団(女性消防)や防災士からの参画を促していく
事業内容①を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ■ コーディネーターによる視察先(内容)の選定が良く、視察参加者の情報共有と今後のビジョンの共有に非常に効果があった。
事業内容① 残課題等	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災・減災に関する知識や手法は日進月歩であり、それらの内容精査と共有化が非常に難しい ■ 新規に参画する防災教育実践者に対する防災教育の基盤がない(指導要綱的なもの)

事業内容②なかやまマイコミュニティ減災マップの作成		
事業内容②目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■ なかやまマイコミュニティ減災マップにより参加者に次の情報を確認させることができる <ul style="list-style-type: none"> ① 自宅周辺ハザード ② 各種災害時の避難先 ③ 各種災害時の避難ルート ④ 避難スイッチ(タイムライン) ⑤ 避難時の持ち物 ⑥ 避難時の連絡先と手段 ⑦ 日ごろからの備え ■ 家族の心身の状態の変化に合わせ少なくとも1年に1度内容の更新を促すことができる ■ 中山町の実情にあった災害に対応したなかやまマイコミュニティ減災マップを作ることができる ■ 身近な町の情報発信を周知し、避難行動に活かしてもらう ■ マイトimelineに影響を与えるコミュニティの存在を意識し、共助に対する興味関心を促す 	
事業内容②目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> ■ なかやまマイコミュニティ減災マップにより、地域防災計画で想定されている各ハザードを知る ■ 自宅や家族の行動範囲のハザードを再確認し、災害時の行動を家族で確認する ■ コミュニティの存在を意識し、共助に対する興味関心を持ち、自らが参画する意識を持つ ■ マップの楽しいデザインを利用し、防災行動を気楽に楽しく考えられるきっかけとする 	
事業内容② 実施内容 A (実施日:1/11)	<p>■ なかやまマイコミュニティ減災マップ試作のためのコミュニティ防災教育 ワークショップ①(中山町消防団) なかやまマイコミュニティ減災マップの試作段階のもので、中山町消防団の幹部団員や女性消防団(30人)を対象に、説明とマップ作りのワークショップを行った。</p> <p>□ 成果 (提供者) 試作段階での実施であったが、参加者に意見を頂いたことで、より町民に見やすいものにするための改善のポイントを定めることができた 研修プログラムについての改善、時間配分から見たマップ掲載情報の精査ができた</p> <p>(参加者) 公助として地域のあてにされがちな消防団だが、災害時の行動を改めて考えることにより、できないことや準備を進めなければならないことが見えた 単独消防を持たない町の特徴から、日常で求められる地域との連携は、防火・救助だけではなく、避難行動や情報提供など、事前防災に主体的に参画しなければならないことを改めて認識する機会となった</p>	
事業内容② 実施内容 B (実施日:1/24)	<p>■ なかやまマイコミュニティ減災マップ試作のためのコミュニティ防災教育 ワークショップ②(中山町民一般公募) なかやまマイコミュニティ減災マップの試作段階のもので、公募した中山町民(13人)を対象に、説明とマップ作りのワークショップを行った。</p> <p>□ 成果 (提供者) 最終版の地図面を町民にも見ていただき、マップ作成に対してさらに精度を高めることができた 今回実施期間上、できなかったこと(デジタルデータの活用)への要望があることもわかり、次年度への活動に活かせる情報を集めることができた</p> <p>(参加者) 家族の参加者が多かったこともあり、コミュニティの最小単位である家族の中でも、今、予測していない様々な事柄が起きることを実感いただき、コミュニティの視点を持つ重要性に気づきを得た</p>	

<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■ 発生した課題や失敗点</p> <p>① 神奈川区のシールを参考に試作したシールサイズであり、地域展開を踏まえ、高齢者にも使いやすいサイズ感を目指したが、マップの縮尺が小さい(1/33000)ので、大まかな位置での作成になり、シールに地図情報が隠れてしまうといった意見もあった</p> <p>② 伝達したい防災・減災の情報とマップ作成に関する情報が多すぎるため、整理(取捨選択とレイアウト)が必要</p> <p>□ 乗り越えた方法</p> <p>① マップ自体は大まかな位置確認に用い、「避難先」「避難行動」「日頃の備え」の書き込みによる自分の避難行動の確認を本マップの主たる役割とした</p> <p>② プロトタイプから情報を整理し大幅にレイアウトを変更し、参加者の使いやすさが向上した</p> <p>③ 地図サイズや縮尺を大きくすると家庭での作業性も悪くなるため、地図サイズは変えず、何のためのシールか?(あくまでも自宅から避難計画上のルートが確認できれば良い)を定め、高齢者でも作業しやすい範囲の中で小さめのシールとした</p>
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>試作段階では、ある程度防災・減災に関する情報を持つ消防団員と、一般の住民を対象としたことで、理解度などのアンケートや意見をいただくこととした</p>
<p>事業内容② 残課題等</p>	<p>■ マップの内容については、防災・減災に関する最新の情報や使いやすさの向上など、定期的な最適化が必要であり、その事業化が課題となる</p>
<p>事業内容③ 防災教育プログラムおよびなかやまマイ>コミュニティ減災マップを活用した防災教育の実施</p>	
<p>事業内容③目標 (提供者側)</p>	<p>■ 事業内容②で掲げた目標の再掲</p> <p>■ なかやまマイ>コミュニティ減災マップにより参加者に次の情報を確認させることができる</p> <p>① 自宅周辺のハザード ② 各種災害時の避難先 ③ 各種災害時の避難ルート</p> <p>④ 避難スイッチ(タイムライン) ⑤ 避難時の持ち物 ⑥ 避難時の連絡先と手段</p> <p>⑦ 日ごろからの備え</p> <p>■ 家族の心身の状態の変化に合わせ少なくとも1年に1度内容の更新を促すことができる</p> <p>■ 中山町の想定した災害に対応したなかやまマイ>コミュニティ減災マップを作ることができる</p> <p>■ 身近な町の情報発信を周知し、避難行動に活かしてもらう</p> <p>■ マイタイムラインに影響を与えるコミュニティの存在を意識し、共助に対する興味関心を促す</p> <p>■ 上記目標が、より効果的に実施できるプログラム、なかやまマイ>コミュニティ減災マップとなったか検証する</p> <p>■ なかやまマイ>コミュニティ減災マップを通じて地域防災や園防災への興味をコミュニティ防災として芽生えさせる</p>
<p>事業内容③目標 (参加者側)</p>	<p>■ 事業内容②で掲げた目標の再掲</p> <p>■ なかやまマイ>コミュニティ減災マップから、地域防災計画で想定されている各ハザードを知る</p> <p>■ 自宅や家族の行動範囲のハザードを再確認し、災害時の行動を家族で確認する</p> <p>■ コミュニティの存在を意識し、共助に対する興味関心を持ち、自らが参画する意識を持つ</p> <p>■ マップの楽しいデザインを利用し、防災行動を気楽に楽しく考えられるきっかけとする</p> <p>■ 地域での展開のイメージを持つ(自主防災会)</p>
<p>事業内容③ 実施内容 A (実施日:1/29AM)</p>	<p>■ コミュニティ防災教育ワークショップ① (中山町自主防災会連絡協議会) 自主防災会代表者等(21人)を対象に、災害想定の確認となかやまマイ>コミュニティ減災マップ作りのワークショップを行った。</p> <p>□ 成果 (提供者) 自主防災組織の代表者を対象とすることで、次年度以降の各組織の事業計画への組み込んでもらえるよう、体験を通じ周知を行うことができた。</p> <p>(参加者) A1版の地図を準備し、見ていただいたが、A2版であっても見にくい等の声はなかった。</p>



<p>事業内容③ 実施内容 B (実施日:1/29PM)</p>	<p>■ コミュニティ防災教育ワークショップ② (なかやま保育園年中児保護者) なかやまマイコミュニティ減災マップを利用して、なかやま保育園未満児保護者(62人)を対象に、公立保育園として地域での減災の考え方と園の防災活動への理解促進のために、地域特性を知るための減災マップ作りのワークショップを行った。(なかやま保育園でのYURETAを使った防災訓練は年中児から、防災教育は年長児から実施するため、その内容も体験的に知ってもらった)</p> <p>■ 成果 (提供者) 他行事との抱き合わせということもあり、限られた時間内で減災の考え方、なかやまマイコミュニティ減災マップの説明と作業を実践的な形で実施できた。参加者である保護者側も夫婦や親子(同居の祖父母)での参加があり、提供側として望ましい参加状況であった。またメディアリリースを行い、広く活動を周知できた</p> <p>(参加者) 熱心に取り組む様子が見られ、家族や保護者同士で避難行動の話題が深まっている様子が見られた。短時間の中での実施であったが、終了後は引き続き家庭での確認に対して前向きな感想が多かった 自分自身だけではなく、家族やお子さんのことを想定するコミュニティ防災の視点が活かされていた</p>	 <p>さくらんぼテレビ(山形県山形市)</p>  <p>山形新聞社(山形県山形市) 2026年2月5日</p>
<p>事業内容③を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■ ワークショップの対象者の防災・減災に対する情報量(防災への興味関心の度合い)により、説明と作業の時間配分を算出することが難しい。(できるだけ、マップ作りの作業時間をとりたい)</p> <p>■ 作業時間の算出を行い、さまざまなパターンでのワークショップの開催形態を準備する必要がある。一方で、このマップ自体が様々な要素を含みつつ、シンプルな構成にしているため、参加者にあわせたメニューをカスタマイズできるメリットもある。カスタマイズした部分以外にも関連してくる要素がその時には実施しなくても視覚的にわかるメリットもあった</p> <p>■ この減災マップの大きな特徴である行動宣言を実施する時間がなかった</p>	
<p>事業内容③を実施する上で工夫した点</p>	<p>■ 防災教育を実施している幼保、小中学校の保護者を対象とした行事等とのコラボレーションをすれば、コミュニティ防災教育として開催しやすい。※例年の抱き合わせ行事参加者の1.5倍ほどの参加率であったため、保護者にも需要がある内容であったのではないかと</p> <p>■ 各団体にあわせた重要なポイントを抽出して実施をした</p>	
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<p>■ なかやまマイコミュニティ減災マップは「読んで作る」前に、防災/減災行動や災害に関するレクチャーを受けたほうが効果的なので、その実施者(提供者)の人材育成が課題となる</p>	

■参考資料

- ・ なかやまマイコミュニティ減災マップ
- ・ なかやまマイコミュニティ減災マッププログラム構成
- ・ 中山町全世代防災教育普及事業 運営体制図
- ・ 中山町全世代防災教育普及事業 実施状況写真
- ・ なかやまマイコミュニティ減災マップ WS チラシ
- ・ ワークショップ資料/なかやまマイコミュニティ減災マップレジュメ(プロトタイプ)
- ・ アンケート結果/なかやまマイコミュニティ減災マップアンケート原本
なかやまマイコミュニティ減災マップアンケート 260111
なかやまマイコミュニティ減災マップアンケート 260124
- ・ 視察資料/横浜市神奈川区 横浜市神奈川区 自分で作るmy防災マップ
横浜市青葉区 20260115 横浜市青葉区支援員 (90分)A4判2面
NPO 法人減災教育普及委員会パンフレット 01 及び 02
- ・ 中山町の防災教育に関する資料/中山町防災教育の概要・R5 中山町防災教育報告書・R7 中山町防災教育提案
- ・ 減災に向けた取り組み事例集(最上川上流)抜粋 中山町防災教育(国土交通省)

試作ワークショップにて実施